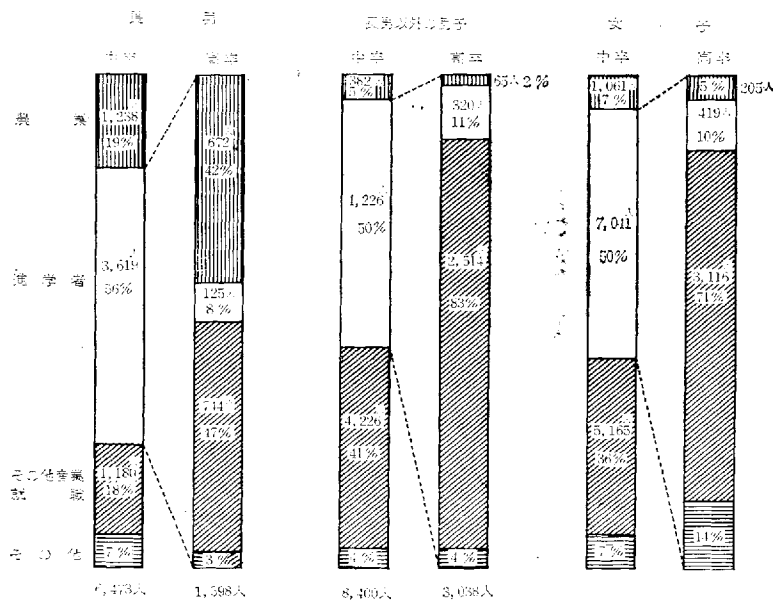


農業近代化のテンポがおくれれば、脱農、兼業、農家出身子女の他産業進出が多くなり、農業人口の老齢化、女性化がすすみ、技術革新をともなう農業近代化のテンポは、鈍化し、ひいては本県産業や社会の調和ある発展を阻害することにもつながると考えられる。

本県農業近代化推進の若いエネルギーとなる農家の子弟の中学校・高等学校卒業後の状況をみると、第21図のとおりである。

第21図 農家の子弟の卒業後の状況



農家の長男のうち中学校卒業後直ちに農業に従事する者は、わずか19%で、56%の者は、高校に進学している。高校に進学した農家の長男のうち、農業に従事した者は、その42%にすぎない。農家の長男のうち、中学校または高等学校卒業後農業の後継者となった者は、48%程度と推定される。約半数は、その他の産業に就職したことになる。長男以外の男子、または女子が、不足を若干補っている。

このまま推移するものと仮定すれば、中等教育年齢人口の減少傾向と相まって、農業に従事する若年労働力は、さらに不足し、30~34才を基底とする逆ピラミッドは、高さの低いピラミッド形の形成をはやめることになり、農業近代化推進をつよく阻害することが考えられる。

農業後継者の育成確保が、現在そして今後の大きな問題である。

以上、手もとの資料をもとに本県農業の推移と今後の見通しを概観し、課題の二、三をとりあげてみた。これらの課題意識にたって、本県農業の教育への要請をまとめてみたい。

- (1) 農業の近代化は、他の産業の動向に深くつながっている。本県経済の動向をつねには握し、その中で農業はどうあるべきか。農業の実態、課題を広い視野からみるとともに、具体的な立地条